

Kitami Institute of Technology

北見工業大学

学報

平成14年11月 事務局総務課発行 第194号

地域共同研究センター創立10周年記念事業



(関連記事17ページに掲載)

目 次

国際交流	2002年外国人学生のための進学説明会に参加..... 3 中華人民共和国哈爾濱工程大学及び東北電力学院から訪問団が来学..... 4
入試関係	平成15年度学生募集要項..... 5 平成15年度大学院工学研究科博士前期課程（第2次）学生募集要項..... 5 平成15年度大学院工学研究科博士後期課程（第2次）学生募集要項..... 6
研究助成	平成14年度(財)医科学応用研究財団調査研究助成金交付決定..... 7 平成14年度ノーステック財団研究開発助成事業補助金交付決定..... 7 平成14年度(財)三豊科学技術振興協会研究助成金交付決定..... 7 平成14年度民間等との共同研究の受入状況..... 7 平成14年度受託研究の受入状況..... 8 平成14年度奨学寄附金の受入状況..... 8
人 事	人事異動、新任者紹介.....10 住所変更等、海外渡航.....12
受 賞	小川芳樹助教授「市河賞」を受賞.....14
研 修	第11回北見工業大学技術部技術職員研修.....14
諸 報	外国人留学生見学旅行.....15 国立大学の法人化等に関する全学説明会.....16 父母との懇談会（秋季）開催.....16 交通安全講習会を開催.....16 地域共同研究センター創立10周年記念事業を実施.....17 消防訓練を実施.....18
規 程	北見工業大学における教員の任期に関する規程の一部を改正.....19 する規程（北工大達第21号） 北見工業大学地域共同研究センター教授及び助教授、機器分.....19 析センター助教授並びに留学生教育相談室講師の選考規程の 一部を改正する規程（北工大達第22号） 北見工業大学地域共同研究センター助教授、機器分析センター.....20 助教授及び留学生教育相談室講師の任用期間等に関する申合 せの一部を改正する申合せ（平成14年9月11日 教授会確認） 北見工業大学学術振興・国際交流基金規程の一部を改正する.....20 規程（北工大達第23号） 北見工業大学産学連携研究員取扱要項の一部を改正する要項.....21 （北工大達第24号） 北見工業大学放射線障害予防規程（北工大達第25号）.....21
日 誌	9月・10月

*住所変更等については、11月8日まで掲載しました。

= 国際交流 =

2002年外国人学生のための進学説明会に参加

留学生教育相談室講師 菅野 亨

財団法人 日本国際教育協会 (AIEJ) 主催で文部科学省補助事業である2002年外国人学生のための進学説明会が、東京の池袋サンシャインシティ文化会館において、9月8日(日)、午前10時から午後4時まで開催されました。本学においても例年と同様にブースを開設し、入学主幹付入学試験係の弘中主任と留学生教育相談室の菅野が、学生への説明・対応にあたりました。参加教育機関数は、182大学・短期大学、その他2機関であり、大学・短大コーナーに加えて、専門学校入学に関する情報を提供するコーナー、学校選択、在留資格、入学試験等の個別相談のコーナー、留学生会コーナー、入学資料コーナーが開設されていました。来場者数は4515名で、昨年が3803名そして一昨年在3409名であり、年々著しい増加傾向を示しているようです。



写真1 本学ブースの展示パネル

来場した学生のほとんどは、日本語学校に通って進学の準備をしている私費留学志望の方々でした。また本年度は、本学が夏休み中であり東京でアルバイト中だった機械システム工学科1年の呉さんが、ボランティアとして特に中国人学生と母国語での対応にあたってくれたのは大助かりでした。

私費留学生志望者(学部)の試験は、昨年までは私費外国人留学生統一試験(理科系)と日



写真2 進学希望学生への説明風景

本語能力試験(1級)の2種類を受験することが必要でしたが、今年度からは日本留学試験に統一され、本学の場合、その中の日本語、数学(コース2)、理科(物理及び化学)を受験することが必要条件となりました。面接にあたっては、上記試験以外に本学独自の筆記試験、面接試験がなく、日本留学試験や健康診断結果等の書類選考のみで入学許可が与えられることを本学入学の利点として強調しました。

本学ブースには進学希望者の親御さんも含めて39名来られ、昨年の28名より大幅に増加し特に午前中は来場者の対応におわれました。出身は中国34名、ベトナム3名、モンゴル1名、パキスタン1名で、その中で大学院志望者が5名おりました。志望分野は情報・電気電子20名、化学・機能材料7名、機械5名、土木開発4名、その他3名であり、配布した本学のガイドブック(Blue Skies and Brilliant Sunshine)を見ながら具体的に授業科目や研究分野を質問する熱心な方も多く見受けられました。さらに進学希望者の関心事は、奨学金の種類と受給の可能性、授業料免除、生活費とアルバイト等であり、当然ですが生活面での不安を抱えていました。これらの質問には、歯切れの悪い返答しかできずもどかしく感じながらの対応でした。

しかし、私費外国人留学生統一試験を受験し

た本学在籍の張明さん（情報工学科2年）の話の間接的に聞いて（呉さんもその一人だということです）本学ブースを訪れた人も何人かいて、日本にいる進学希望者のネットワークを通じて、本学の評判が広がりつつあるのは嬉しいことでした。現在、私費外国人留学生統一試験（日本留学試験）を受験して入学したのは張明さん、呉さん、張広祥さん（電気電子工学科）の3人おり、この進学説明会をきっかけにしてさらに多くの留学生が本学に入学することを願っております。



写真3 進学説明会会場風景

ハルビン 中華人民共和国哈爾濱工程大学及び東北電力学院から訪問団が来学

（総務課）

去る9月12日（木）に、本学と学術・教育交流協定関係にある哈爾濱工程大学から、邱長華チュウチャンフオア校長を始めとする7名の教職員が本学を訪問されました。

今回の訪問では、両大学間の学術・教育交流協定が締結後5年を経過したことに伴い、同協定書及び学生交流に関する覚書の更新調印式が行われ、その後、今後の交流推進について懇談が行われました。



哈爾濱工程大学訪問団（左から2人目：邱校長）

なお、同訪問団は、本学での予定終了後、引き続き東京に移動し、電気通信大学、哈爾濱工程大学及び本学共催の3大学国際ワークショップ（会場：電気通信大学）に参加されました。

また、10月25日（金）には、同じく本学と学術・教育交流協定関係にある東北電力学院から辛国華シンクォーフア副院長を始めとする3名の教職員が本学を表敬訪問され、常本学長を始めとする本学関係者と両大学間の交流について意見交換が行われました。



東北電力学院訪問団（後列左から2人目：辛副院長）

= 入試 =

平成15年度学生募集要項

平成15年度北見工業大学学生募集要項を、10月に公表し、道内外への高等学校等へ発送しました。

昨年度と同様に【一般選抜】と【推薦入学・帰国子女特別選抜】の分冊となりました。

募集要項の内容は、既に公表済みの入学者選抜要項（本紙192号）を更に詳細にしたものです。

募集要項の配布および内容の照会等については入学試験係で行っております。

平成15年度大学院工学研究科博士前期課程（第2次）学生募集要項

平成15年度大学院工学研究科博士前期課程（第2次）学生募集要項を決定し、公表しました。

試験日程等は以下のとおりです。

一般選抜

受付期間	平成15年1月20日(月)から 平成15年1月24日(金)まで
募集人数	各専攻とも若干人
試験日時	平成15年2月12日(水) 平成15年2月13日(木)
合格発表	平成15年2月19日(水)

学部3年次学生を対象とする選抜

資格	平成15年3月末に、大学における在学期間が3年以上（休学した期間を除く）となる者又は外国において学校教育における15年の課程を修了する者で、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと、本学大学院において認められた者（ただし、大学に編入学した者を除く）
----	--

事前審査	平成14年12月9日(月)から 平成14年12月12日(木)まで
受付時間	平成15年1月20日(月)から 平成15年1月24日(金)まで
募集人員	各専攻とも若干人
試験日時	平成15年2月12日(水) 平成15年2月13日(木)
合格発表	平成15年2月19日(水)

社会人特別選抜

資格	入学時において現に勤務している企業等で2年以上の技術関係業務の経験を有する者で入学後も引き続きその身分を有し、所属長の承認を受けられる者
受付期間	平成15年1月20日(月)から 平成15年1月24日(金)まで
募集人員	各専攻とも若干人
試験日時	平成15年2月13日(木) (個人面接により選考)
合格発表	平成15年2月19日(水)

外国人留学生特別選抜

資格	日本の大学において教育を受ける目的をもって入国する又は入国した外国人
受付期間	平成15年1月20日(月)から 平成15年1月24日(金)まで
募集人員	各専攻とも若干人
試験日時	平成15年2月12日(水) 平成15年2月13日(木) (国費外国人留学生は、学力検査及び面接を免除し、申請書類による選考)
合格発表	平成15年2月19日(水)

平成15年度大学院工学研究科博士後期課程（第2次）学生募集要項

平成15年度大学院工学研究科博士後期課程（第2次）学生募集要項を決定し、公表しました。

試験日程等は以下のとおりです。

1 専攻別募集人員

専攻名	募集人員
システム工学専攻	7人
物質工学専攻	5人
計	12人

2 出願資格

次のいずれかに該当する者

- (1) 修士の学位を有する者及び平成15年3月までに修士の学位を取得見込みの者
- (2) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者及び平成15年3月までに修士の学位に相当する学位を授与される

見込の者

- (3) 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号参照）
 - (4) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で24歳に達したもの
 - (5) 本研究科において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
注）出願資格(3)、(4)、又は(5)により出願する者は、出願資格の事前審査を行う。
- 3 願書受付期間
平成15年1月20日(月)から
平成15年1月24日(金)まで
 - 4 出願手続 略
 - 5 選抜方法
入学者の選抜は、面接（口述試験）、修士論文（又はそれに代わる論文等）についての審査、出身大学・大学院の成績証明書及び健康診断の結果を総合して行う。
 - 6 試験日時 平成15年2月12日(水)
 - 7 合格発表 平成15年2月19日(水)

= 研究助成 =

平成14年度(財)医科学応用研究財団調査研究助成金交付決定

(総務課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
電気電子工学科	教 授	谷藤 忠敏	人頭部血中酸素濃度分布同定のための時間領域光CT像再生アルゴリズムの研究と光CTシステムプロトタイプ試作	千円 1,000

平成14年度ノーステック財団研究開発助成事業補助金交付決定

(総務課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
化学システム工学科	教 授	多田 旭男	勇払産天然ガスからクリーン水素とカーボンナノウィスカーを製造する新技術確立のための基盤研究	千円 2,000
機械システム工学科	助教授	松村 昌典	小骨除去を目的としたウォータージェットによる鮭加工装置の開発	1,000

平成14年度(財)三豊科学技術振興協会研究助成金交付決定

(総務課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
機械システム工学科	助教授	閻 紀旺	単結晶ゲルマニウムの微細溝加工による赤外線フレネルレンズの製作	千円 2,450

平成14年民間等との共同研究の受入状況

(総務課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等名
情報システム工学科	助教授	榮坂 俊雄	リアルタイム制御に関わるハードウェアの研究	(株)アットマークテクノ
情報システム工学科	助教授	榮坂 俊雄	リアルタイム制御に関わるソフトウェアの研究	(株)アットマークテクノ
土木開発工学科	教 授	高橋 修平	氷掘削装置開発に関する基礎的研究	(株)地球工学研究所
土木開発工学科	教 授	鈴木 輝之	凍土対策における粒状廃棄物の有効利用に関する研究	三菱化学フォームプラスチック(株)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等名
化学システム工学科	教 授	多田 旭男	豚糞と抜根の混合物のコンポスト化条件の最適化	(社)北見工業技術センター運営協会
土木開発工学科	助教授	櫻井 宏	産業廃棄物を利用したエコ・コンクリート製品の開発	(株)イワクラ

平成14年度累計 67件

平成14年度受託研究の受入状況

(会 計 課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目及び研究期間	委託機関	所要経費
機械システム工学科	教 授 助教授 教務職員 技 官	坂本 弘志 森谷 優 高井 和紀 小畑 芳弘	吹雪障害防止のための翼型誘導板を有する新型高性能防雪柵の開発 平成14年8月～平成15年3月	(社)北見工業技術センター運営協会	円 7,422,450
機能材料工学科	教 授	高橋 信夫	永久凍土地帯のメタンハイドレートの安定性と生成解離に係るNMRによるガスハイドレートの安定性と構造に関する研究 平成14年8月～平成15年3月	独立行政法人産業技術総合研究所	1,391,000

平成14年度累計 13件

平成14年度奨学寄附金の受入状況

(会 計 課)

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
土木開発工学科	教 授	内島 邦秀	「緩和曲線を挿入した河道湾曲部の流れと河床形状に関する研究」に対する研究助成	(財)北海道河川防災研究センター	円 1,200,000
電気電子工学科	教 授	田村 淳二	「可変速水車発電機及び風力発電機の系統連携時総合解析手法の研究」に対する研究助成	北海道電力(株)	1,000,000
電気電子工学科	助教授	菅原 宣義	「学術研究」に対する研究助成	森永乳業(株)装置開発研究所	300,000
電気電子工学科	教 授	野矢 厚	「バリヤ層の密着性に関する研究」に対する研究助成	(株)富士通研究所	500,000
化学システム工学科	教務職員	服部 和幸	「学術交流研究」に対する研究助成	(財)栗林育英学術財団	200,000
化学システム工学科	助教授	堀内 淳一	「工学研究」に対する研究助成	雪印乳業(株)札幌研究所	500,000

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
電気電子工学科	助教授	柏 達也	「大規模電磁界シミュレーション技術」に対する研究助成	(株)本田技術研究所栃木研究所	1,500,000 ^円
地域共同研究センター	センター長	鈴木 輝之	「地域共同センター事業推進」に対する助成	共同研究推進セミナー実行委員会	500,000
地域共同研究センター	センター長	鈴木 輝之	「オホーツク地域の行政・民間機関との共同研究・研究交流及び技術指導、教育、開発の推進」に対する助成	北見工業大学地域共同研究センター推進協議会	1,500,000
情報システム工学科	助教授	三浦 則明	「工学研究」に対する研究助成	三浦 則明	300,000
土木開発工学科	教授	海老江邦雄	「工学研究」に対する研究助成	水道機工(株)	1,000,000
電気電子工学科	助教授	菅原 宣義	「配電用がいし類の塩雪害および絶縁特性に関する研究」に対する研究助成	北海道電力(株)総合研究所	1,000,000
土木開発工学科	教授	大島 俊之	「橋梁メンテナンスの研究」に対する研究助成	(株)日本製鋼所室蘭研究所	500,000
共通講座	教授	鈴木 一央	「体育・スポーツ研究」に対する研究助成	鈴木 一央	700,000
電気電子工学科	教授	山城 迪	「工学研究」に対する研究助成	北海道電力(株)	1,000,000
	学長	常本 秀幸	「奨学交付金」	赤塚 陽子	500,000
土木開発工学科	教授	鈴木 輝之	「土の凍上性に関する研究」に対する研究助成	(株)北杜設計	150,000
	学長	常本 秀幸	「学生の進路指導・大学説明会等の事業推進」に対する助成	北見工業大学学生後援会	2,000,000
未利用エネルギー研究センター	助教授	八久保晶弘	「工学研究」に対する研究助成	八久保晶弘	300,000
化学システム工学科	助教授	堀内 淳一	「バイオリアクターによるチーズホエーからの環境調和型融雪剤の微生物生産」に対する研究助成	(財)クリタ水・環境科学振興財団	800,000
電気電子工学科	教授 教務職員	田村 淳二 高橋 理音	「同期機におけるCanayリアクタンスの影響調査研究」に対する研究助成	(社)システム総合研究所	2,560,000
	学長	常本 秀幸	「工学研究」に対する研究助成	(株)いすゞ中央研究所	1,000,000
電気電子工学科	教授	野矢 厚	「次世代半導体デバイス評価技術の研究」に対する研究助成	(株)日立製作所	1,200,000
土木開発工学科	教授	海老江邦雄	「工学研究」に対する研究助成	オルガノ(株)	500,000
土木開発工学科	教授	前田 寛之	「工学研究」に対する研究助成	(社)資源・素材学会	595,000

平成14年度累計 56件

= 人事 =

人 事 異 動

(総 務 課)

文部科学省発令

発令年月日	現 官 職	氏 名	異 動 内 容
14 . 9 . 30	事務局長	大 内 剛	辞職を承認する
14 . 10 . 1	国立山口徳地少年自然の家所長	柴 崎 明 博	文部科学省スポーツ・青少年局付に採用する
"	文部科学省スポーツ・青少年局付	柴 崎 明 博	事務局長に昇任させる

大学発令

発令年月日	現 官 職	氏 名	異 動 内 容
14 . 9 . 16	総務課総務係主任	渡 部 孝 弘	施設課企画係長に昇任させる
14 . 10 . 1		八木澤 学	会計課(司計係)に採用する
"	会計課司計係	谷 本 裕 臣	北海道大学医学部附属病院管理課経理掛に転任させる

新 任 者 紹 介

事務局長に しばさき あきひろ 柴崎 明博 氏

昭21 . 5 . 24生

- 41 . 4 平工業高等専門学校庶務課
- 42 . 6 福島工業高等専門学校庶務課
- 44 . 4 " 学生課
- 45 . 4 東京工業大学工業材料研究所
- 47 . 9 " 庶務部人事課
- 48 . 4 文部省大臣官房人事課給与班併任（昭49 . 3まで）
- 49 . 4 " 初等中等教育局教科書検定課
- 51 . 4 高エネルギー物理学研究所管理部庶務課共同利用係長
- 52 . 4 " 管理部研究協力課共同利用係長
- 54 . 4 文部省初等中等教育局中学校教育課専門職員
- 55 . 4 " 大学局技術教育課庶務係長
- 56 . 4 " 大学局技術教育課短期大学係長
- 59 . 7 " 高等教育局技術教育課短期大学係長
- 60 . 4 兵庫教育大学総務部庶務課長
- 63 . 4 東京水産大学庶務課長
- 平元 . 8 文部省大臣官房政策課専門員
- 元 . 10 " 課長補佐
- 7 . 4 岡崎国立共同研究機構総務部長
- 10 . 4 筑波大学研究協力部長
- 13 . 4 国立山口徳地少年自然の家所長
- 14 . 10 北見工業大学事務局長



会計課文部科学事務官に やぎさわ まなぶ 八木澤 学 氏

昭50 . 7 . 26生

- 平12 . 3 室蘭工業大学大学院工学研究科博士前期課程修了
- 14 . 9 国家公務員採用Ⅱ種試験合格（行政）
- 14 . 10 北見工業大会計課



海 外 渡 航

外国出張

所 属	職 名	氏 名	渡航目的及び渡航先国	期 間
化学システム工学科	教 授	吉 田 孝	中国南部漆のフィールド調査および中国産漆の種類と生理活性に関する研究打合せ (中華人民共和国)	14 .9 .4 ~ 14 .9 .10
土木開発工学科	教 授	榎 本 浩 之	アメリカ大学国際北極圏研究センターにて北極圏研究情報交換 (アメリカ合衆国)	14 .9 .8 ~ 14 .9 .16
土木開発工学科	助 教 授	高 橋 清	積雪寒冷地土木工学技術に関するセミナー出席及び意見交換 (キルギス共和国)	14 .9 .9 ~ 14 .9 .22
土木開発工学科	助 教 授	三 上 修 一	積雪寒冷地土木工学技術に関するセミナーに出席及び意見交換 (キルギス共和国)	14 .9 .9 ~ 14 .9 .22
情報システム工学科	助 教 授	榮 坂 俊 雄	第4回アジア制御会議にて研究発表及び情報交換 (シンガポール共和国)	14 .9 .23 ~ 14 .9 .27
電気電子工学科	助 教 授	菅 原 宣 義	着氷ストームの低減に関するセミナー参加 (カナダ)	14 .10 .4 ~ 14 .10 .10
土木開発工学科	助 教 授	早 川 博	文部科学省在外研究(甲種)としてカリフォルニア大学デービス校にて「水文流出モデルの確率応答」に関する研究 (アメリカ合衆国)	14 .10 .15 ~ 15 .8 .14
情報システム工学科	助 手	嘉 田 勝	フィールズ研究所にて共同プログラム「集合論と解析学」参加及び研究情報収集 (カナダ)	14 .10 .12 ~ 14 .12 .19

所 属	職 名	氏 名	渡航目的及び渡航先国	期 間
未利用エネルギー 研究センター	教 授	庄 子 仁	韓国海洋研究開発研究所にて講演及 びオホーツク海調査の研究打合せ (大韓民国)	14 .10 .16 ~ 14 .10 .18
機械システム工学科	教 授	大 橋 鉄 也	理論および応用力学に関する国際連 合シンポジウム出席及び講演 (モロッコ王国)	14 .10 .17 ~ 14 .10 .27
機械システム工学科	助 教 授	山 田 貴 延	ヨーロッパ熱工学会議71出席及び研 究発表 (フランス共和国)	14 .10 .26 ~ 14 .11 .2
電気電子工学科	教 授	山 城 迪	IEEE TENCON'02出席及び論文発表 (中華人民共和国)	14 . 10 . 28 ~ 14 .10 .30
機能材料工学科	教 授	高 橋 信 夫	2002年日本留学フェア出席 (ベトナム社会主義共和国)	14 .10 .29 ~ 14 .11 .2
留学生教育相談室	教 授	山 岸 喬	2002年日本留学フェア出席 (ベトナム社会主義共和国)	14 .10 .29 ~ 14 .11 .2
教 務 課	課 長	菊 地 壯	2002年日本留学フェア出席 (ベトナム社会主義共和国)	14 .10 .29 ~ 14 .11 .2
機械システム工学科	助 教 授	森 谷 優	第 5 回国際水力学会出席及び討論 (台湾)	14 .10 .30 ~ 14 .11 .4

= 受賞 =

小川芳樹助教授 「市河賞」を受賞

(共通講座)

共通講座の小川芳樹先生は、2002年の第36回「市河賞」を受賞され、去る10月26日、27日埼玉県越谷市の文教大学で開催された語学教育研究大会で贈賞されました。

「市河賞」は日本の英語学の祖といわれ、また英語教育研究にも情熱を注がれた故市河三喜博士からの寄付金を基金として語学教育研究所に設けられたものです。過去一年間において、現代英語を中心とする語学研究に関する優れた論文・著書を公刊した若手研究者にたいして、市河賞選考委員会の選考を経て決定し授与されます。1967年第1回以来、わが国を代表する英語学者に与えられる名誉ある賞です。今回の受賞対象となったのは次の著書です。

A Unified Theory of Verbal and Nominal Projections, Oxford University Press, New York & Oxford, 2001, xi + 323pp.

小川先生は1997年に東北大学で学位を取得されましたが、その研究成果は卓越したものであるとして、上記の通り、昨年オックスフォード

・ユニヴァーシティ・プレスから、本書としての出版となりました。著書の内容は、生成文法理論の中核的研究課題のひとつである、節の構造と名詞句の構造に見られる類似性と相違性の問題に関するものです。本書は、従来の研究成果を精緻に考察し、節の構造と名詞句の構造に関するさまざまな言語事実を踏まえると共に、通言語的・比較統語論的視点をも取り入れて問題を追求し、抽象度の高い綿密な論証と反証性の高い独自の分析案を提示したところが高く評価されました。さらに、従来の研究の枠を越えて本質に迫る本書の意欲は、「推奨すべき特徴」と称揚されています。

先生は国際的にもっとも権威ある英語学論文誌 *Language* にも注目される論文を発表されるなど、精力的に活躍されておられます。栄えある「市河賞」に本学の教官が輝いたことを、慶びと共にここに報告申しあげますと同時に、小川先生のますますの研究の発展をご期待いたします。

= 研修 =

第11回北見工業大学技術部技術職員研修

(総務課)

第11回技術部技術職員研修が9月2日(月)から9月4日(水)までの3日間にわたりSCS教室及びB111教室を会場に実施されました。

この研修は、技術職員に職務に関する必要な知識等を広く修得させ、資質の向上を図ることを目的として実施され、技術部職員36名が受講しました。

研修では、技術実習、学内外講師による講義・講演、社団法人北見工業技術センターでの講義、施設見学、最終日には技術職員による技術発表会が行われました。



開講式

= 諸報 =

外国人留学生見学旅行

(教務課)

本学の外国人留学生を対象にした「外国人留学生見学旅行」を、9月26日(木)と27日(金)の2日間旭川市を中心に実施しました。

この見学会は、昨年から他大学の留学生との交流を主目的として行っており、今回は旭川医科大学の協力のもとに行われました。

第1日目は最初に旭川医科大学の遠隔医療センターを訪れ、最新の医療設備を医療と工学の観点で見学しました。

引き続きメインである旭川医科大学留学生との意見交換会を行いました。交換会では、全員の自己紹介の後、「日本で驚いたこと」を中心テーマに様々な意見交換が行われ、活発な意見交換の中、時間が瞬く間に過ぎていきました。

予定の時間となって旭川医科大学の留学生と一緒にバスに乗り、交歓会会場へと向かいました。

交歓会では、両校の学生はすっかりリラックスしてうち解け、早速各国の踊りと歌が披露され、盛んに喝采を受けておりました。



意見交換会風景

今回たまたま旭川市で大きな会議があり、旭川市内の宿泊施設が満員で当麻町に宿泊することになりましたが、その施設は新しい健康福祉施設であり、大きなお風呂も付いていて、ゆったりと休むことができました。

その宿泊施設の大部屋で自由研修を行いました。人数が多く多少窮屈ではありましたが、本

学の貸切りだったこともあり、新入留学生もすっかりうち解け、夜遅くまで話題が尽きず充実した研修を行うことができました。

翌日は、午前中北海道立林産試験場を訪れ、日本の木材加工技術について学びました。

試験場には加工品の展示施設等様々な施設が設置されており、留学生は時間一杯まで楽しんで、それでも足らず見学時間の延長希望が出されました。

帰りには全員紅葉の黒岳へロープウェイで登り、深まりゆく北海道の秋を満喫しました。

2日間の語り合いの中、それぞれ新しい友人を見つけ、様々な体験を通して今回の見学旅行を有意義に無事終えることができました。



黒岳にて

国立大学の法人化等に関する全学説明会

(総務課)

9月30日(月)午後3時からC122講義室において教職員を対象とした「国立大学の法人化等に関する全学説明会」を開催しました。

はじめに、常本学長から、法人化の概要とスケジュール、教育・研究・社会貢献の検討課題、今後の課題について説明があり、続いて、鮎田副学長から、統合への取り組みについて説明の後、活発な意見交換が行われました。

説明会には150名を超える参加者があり、国立大学の法人化についての関心の高さをうかがわせました。



父母との懇談会(秋季)開催

(教務課)

父母との懇談会(秋季)を10月19日(土)本学を会場として、全学生(博士後期課程及び春季の札幌地区を除く)を対象に実施しました。

当日は、遠く四国等からの参加者も含め119組158人の父母が参加し、常本学長の挨拶をはじめ高橋副学長の全体説明に続いて、各学科、専攻に分かれて個別面談が行われました。

個別面談では、各学科の教官が対応し修学状況、就職問題等について質問が出され、熱心なやりとりが交わされました。



父母懇談会会場風景

交通安全講習会を開催

(学生課)

本年度の交通安全講習会が、学生及び教職員を対象として10月23日(水)午後3時よりC122講義室で開催されました。

講習会では、高橋副学長から最近の本学学生が原因となっている交通事故や交通違反の報告があり、出席者に対して交通事故防止と交通ルールの遵守を改めて強く要望されました。その後、北見警察署中榮次長から網走管内の事故発生や冬道運転のアドバイスに関する講演、野付牛自動車学校の合田課長によるスライド・ビデオによる事故の悲惨さ、エアバックの仕組みについて詳細な説明があり受講者は興味深く聞いて

ていました。



地域共同研究センター創立10周年記念事業を実施

(総務課)

10月29日(火)午後1時30分から地域共同研究センター創立10周年記念事業が北見芸術文化ホールにおいて開催され、260人の参加者により盛会に実施されました。

また、同日午後6時からは北見東急インにおいて、祝賀会・交流会が開催されました。

記念式典(午後1時30分から午後2時15分)

本学学長からこれまでの経緯と御礼があり、さらに今後の展望について挨拶が行われ、続いて来賓の北見市長、北見商工会議所会頭、室蘭工業大学地域共同研究開発センター長の3人の方から記念の祝辞をいただきました。

記念フォーラム(午後2時30分から午後5時15分)

はじめに、基調講演として(財)北海道科学技術総合振興センター理事長の戸田一夫氏から「意志と協力が地域を創る」の題目により講演が行われ、事例を紹介した興味深い内容の講演で「地域が協力して粘り強く努力する事で新たな道が開かれる」との提言がありました。

続いて3時45分からパネルディスカッションが行われ、本学地域共同研究センター長がコーディネーターとなり「産学官連携の課題と展望」についてのテーマにより、4人のパネラーによる意見発表の後活発な意見交換が行われ、会場からも多くの意見や質疑応答などがあり、今後の産学官連携の課題に関し有意義なパネルディスカッションとなりました。

パネル展(午後1時から午後5時30分)

同会場エントランスにおいて、パネル展が同時開催され、本学や地域の公設試験機関と他大学から計64点の研究紹介や施設紹介が行われ、説明員への質問や内容説明に興味深く見入っていました。

祝賀会・交流会(午後6時から午後7時30分)

同日、午後6時からは北見東急インにおいて、祝賀会・交流会が開催され、140人の参加者により、懇談・交流が盛会に行われました。



基調講演



記念フォーラム



パネル展



祝賀会・交流会

消防訓練を実施

(会計課)

平成14年10月30日(水)午後3時30分から消防訓練を実施しました。

今回は、土木開発工学科1号棟2階の河海工学研究室からの出火という想定で、通報・初期消火・避難救助の総合訓練を行い、初期消火では屋内消火栓からの放水訓練も行いました。

当日は、本学自衛消防隊を中心に、土木開発工学科の教職員・学生も参加し、きびきびと各班の任務を遂行しました。

自衛消防隊の活動終了後は、土木開発工学科学生により、4階の救助袋からの避難及び屋上からハシゴ車による避難の訓練を行いました。その後、北見地区消防組合から消火器使用方法の説明があり、学生・教職員10人が燃え上がるオイルパンの消火訓練を行いました。

最後に、北見地区消防組合消防本部指令長の講評の中で「初期消火・通報・避難、この3つの連携が実際の火災においては重要であり、このどの一つが欠けてもいけない。日頃からこれらを自己点検しておくことが大切である」ことを、本学学長の挨拶の中では「危険物に囲まれているという認識が重要である」ことを訴え、寒空の中、午後4時過ぎに全ての訓練を無事終了することができました。



救助袋による訓練



ハシゴ車による訓練



負傷者救出



消火訓練



各班から防火管理者への報告

消火器の使用方法

- ①安全ピンを抜く(このときレバーを握っていると抜けない)
- ②ホースを火元へ向ける
- ③レバーを握り放射する(力不足で握れないときは手で押さえて全体重をかける)



住宅防火

いのちを守る3つの習慣

- ①寝たばこは絶対やめる
- ②ストーブは燃えやすいものから離れた位置で使用する
- ③ガスこんろなどのそばを離れるときは必ず火を消す

消す心 置いてください 火のそばに

(北見地区消防組合統一標語)

たしがめて。火を消してから 次のこと

(全国統一標語)

= 規 程 =

北見工業大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程

平成14年 9月11日
北工大達第21号

北見工業大学における教員の任期に関する規程（平成12年北工大達第3号）の一部を次のように改正する。

第2条別表中

教育研究組織	対象となる職	任期	再任に関する事項	根拠	を
地域共同研究センター	教授	5年	可とする。ただし再任の場合の任期は3年とし、2回を限度とする。	法第4条第1項第1号	
教育研究組織	対象となる職	任期	再任に関する事項	根拠	に
地域共同研究センター	教授 助教授	5年	可とする。ただし再任の場合の任期は3年とし、2回を限度とする。	法第4条第1項第1号	

改める。

附 則

- 1 この規程は、平成14年9月11日から施行する。
- 2 この規程施行の際、現に在職する教員については、改正後の規程第2条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

改正理由

北見工業大学地域共同研究センター助教授の任期制の導入に伴う所要の改正

北見工業大学地域共同研究センター教授及び助教授、機器分析センター助教授並びに留学生教育相談室講師の選考規程の一部を改正する規程

平成14年 9月11日
北工大達第22号

北見工業大学地域共同研究センター教授及び助教授、機器分析センター助教授並びに留学生教育相談室講師の選考規程（平成10年北工大達第35号）の一部を次のように改正する。

第7条第1項中「第3条第1項」を「第3条第1項及び第2項」に改め、同条第2項中「第3条第2項、第3項及び第4項」を「第3条第3項及び第4項」に改める。

附 則

この規程は、平成14年9月11日から施行する。

改正理由

北見工業大学地域共同研究センター助教授の任期制の導入に伴う所要の改正

北見工業大学地域共同研究センター助教授、機器分析センター助教授及び留学生教育相談室講師の任用期間等に関する申合せの一部を改正する申合せ

平成14年9月11日

教授会 確 認

北見工業大学地域共同研究センター助教授、機器分析センター助教授及び留学生教育相談室講師の任用期間等に関する申合せ（平成10年6月24日制定）の一部を次のように改正する。

題名中「地域共同研究センター助教授、」を削る。

第1を削り、第2を第1とし、第3を第2とし、第4を第3とする。

改正理由

北見工業大学地域共同研究センター助教授の任期制の導入に伴う所要の改正

北見工業大学学術振興・国際交流基金規程の一部を改正する規程

平成14年9月11日

北工大達第23号

北見工業大学学術振興・国際交流基金規程（平成7年北工大達第22号）の一部を次のように改正する。

第5条中「基金から生ずる果実をもつて」を「基金をもつて」に改める。

附 則

この要項は、平成14年9月11日から施行する。

改正理由

事業の経費取扱いの見直しに伴う所要の改正

北見工業大学産学連携研究員取扱要項の一部を改正する要項

平成14年9月11日

北工大達第24号

北見工業大学産学連携研究員取扱要項（平成14年北工大達第2号）の一部を次のように改正する。

題名中「産学連携研究員」を「産学官連携研究員」に改める。

本則中「産学連携研究員」を「産学官連携研究員」に改める。

第1中「と企業との共同研究又は受託研究」を「が契約に基づき行う共同研究又は受託研究」に、「（企業からの受入資金に限る。）」を「（当該共同研究等からの受入れ資金に限る。）」に改める。

第7中「（国立大学等において企業との共同研究・受託研究に従事する非常勤職員の取扱いについて）」を「（国立大学等において共同研究・受託研究に従事する非常勤職員の取扱いについて）」に改める。

第10中「企業との」を削る。

附 則

この要項は、平成14年9月11日から実施する。

改正理由

「国立大学等において共同研究・受託研究に従事する非常勤職員の取扱いについて」（平成13年3月29日付け12文科振第276号・12文科人第243号）の一部改正に伴う所要の改正

北見工業大学放射線障害予防規程

平成14年10月9日

北工大達第25号

北見工業大学放射線障害予防規程（昭和50年北工大達第8号）の全部を次のように改正する。

（目的）

第1条 この規程は、放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律（昭和32年法律第167号）第21条に基づき、北見工業大学（以下「本学」という。）における⁶³Niを装備した表示付ガスクロマトグラフ用エレクトロン・キャプチャ・ディテクタ（以下「表示付ECD」という。）の取扱管理に関する事項を定め、放射線障害の発生を防止し、あわせて公共の安全を確保することを目的とする。

（適用範囲）

第2条 この規程は、本学の表示付ECDの取扱及び管理に当たる者に適用する。

（組織）

第3条 第1条の目的を達成するため、表示付 ECD を取扱う業務については、次の組織によるものとする。

学長 ———— 放射線安全管理責任者 ———— 表示付 ECD 取扱者

安全管理・環境対策委員会

(審議機関)

第4条 放射線障害の発生の防止に関する重要な事項は、安全管理・環境対策委員会で審議する。

(放射線安全管理責任者等)

第5条 放射性同位元素等による放射線障害の発生の防止について指導監督を行わせるため、本学の職員の中から放射線安全管理責任者(以下「責任者」という。)を置く。

2 責任者は本学における表示付 ECD による放射線障害の発生防止に関する業務を統轄する。

3 責任者が、旅行、疾病その他の理由によりその職務を行うことができない期間中、責任者の職務を代行させるために、責任者の代理者を置く。

4 責任者及び代理者は、学長が任命する。

(放射線安全管理責任者等の職務)

第6条 責任者は、本学における放射線障害の発生の防止に係る監督に関し、次の各号に掲げる業務を行う。

一 放射線障害予防規程の制定及び改廃への参画

二 立入検査時の立会

三 異常及び事故の原因調査への参画

四 学長に対する意見の具申

五 関係者への助言、勧告及び指示

六 その他放射線障害防止に関する必要事項

2 責任者は、表示付 ECD の使用、保管、運搬、廃棄の管理を行う。

3 責任者の代理者は、責任者が旅行、疾病その他の理由により不在のときは、その職務を代行しなければならない。

(事務)

第7条 表示付 ECD の取扱管理に係る事務は総務課において行い、関係法令に基づく届出等、その他関係省庁との連絡等事務的事項に関する業務を行う。

(点検)

第8条 責任者は、表示付 ECD の設備、機器等について、別表1に定めるところにより点検を行わなければならない。

2 国等の指示または地震の発生その他施設に異常が発生するおそれのある場合及び学長が必要と認めたときは、必要な事項について臨時に点検を行うものとする。

3 責任者は、前2項の点検の結果を学長に報告するとともに、異常を認めたときは、修理等の必要な措置を講じなければならない。

4 責任者は、設備、機器等について修理等の措置を終えたときは、その結果について学長に報告しなければならない。

(使用)

第9条 表示付 ECD 取扱者(以下「取扱者」という。)は、責任者の監督の下で表示付 ECD を使用しなければならない。

2 取扱者は、使用中に機器の故障その他異常が発生し、又は発生のおそれがある場合は、直ちに

機器の使用を中止し、その旨を責任者に報告しなければならない。

(注意事項の掲示)

第10条 責任者は、表示付 ECD の取扱いに関する注意事項を機器設置場所近くの目に付きやすい場所に掲示するとともに、「注意・放射性同位元素」のラベルをガスクロマトグラフ本体表面に貼り付けなければならない。

(保管)

第11条 表示付 ECD の保管については、次の各号に掲げる事項を厳守しなければならない。

- 一 取扱者は、表示付 ECD をガスクロマトグラフから取り外してはならない。
- 二 責任者は、表示付 ECD の設置場所を使用していない間は、出入口扉に施錠しなければならない。

(運搬)

第12条 責任者は、表示付 ECD を修理、洗浄等のため運搬する必要があるときは、次の各号の基準に従って行わなければならない。

- 一 表示付 ECD を容器に封入し、運搬の基準に適合した包装とすること。
- 二 表示付 ECD を、文部科学省から許可された本学の事業所外において運搬する場合は、前号のほか、関係法令で定める技術上の基準に従って必要な措置を講ずること。

(廃棄)

第13条 責任者は、表示付 ECD を廃棄する必要がある場合、学長の承認を得た上で、販売業者に引き渡さなければならない。

(危険時の措置)

第14条 表示付 ECD に関し、地震、火災、運搬中の事故等の災害が起こったことにより放射線障害のおそれがある場合又は放射線障害が発生した場合の通報は、別表2に定める通報体制により行うものとする。

- 2 責任者は、前項の通報を受け、又はそれを知った場合には、必要に応じ、直ちに警察官に通報するとともに、学長に報告し、災害の拡大の防止、通報、避難警告等応急の措置を講じなければならない。
- 3 学長は、前項の事態が生じた場合は、遅滞なく文部科学大臣又は国土交通大臣に届け出なければならない。

(地震等の災害時における措置)

第15条 責任者は、地震、火災等の災害が起こった場合には、表示付 ECD の設備、機器等について点検を行い、その結果を、学長に報告しなければならない。ただし、地震時においては震度4以上を目安に点検を行うものとする。

- 2 前項の点検において、実施する項目等については、第8条の規定を準用する。

(記録)

第16条 責任者は、表示付 ECD の保管、運搬、廃棄及び点検に関する記録を行わなければならない。

- 2 前項の記録帳簿は、各年度毎に閉鎖し、学長の監査を受けなければならない。
- 3 前項の規定により閉鎖した記録帳簿は、総務課において5年間保存しなければならない。

(異常時の報告)

第17条 学長は、表示付 ECD の盗取又は所在不明及び放射線障害が発生し又は発生するおそれがあるときは、その旨を直ちに、さらにその状況及びそれに対する処置を10日以内に、それぞれ文部科学大臣に報告しなければならない。

(定期報告)

第18条 学長は、第16条に規定する記録に基づき、毎年4月1日から翌年の3月31日までの期間について放射線管理状況報告書を作成し、当該期間経過後3月以内に文部科学大臣に提出しなければならない。

(放射線施設の新設等の届出)

第19条 放射線施設の新設、拡充又は改廃しようとする者は、予め学長の承認を得なければならない。

(雑則)

第20条 この規程の実施に関し必要な事項は、安全管理・環境対策委員会の議を経て、学長が定める。

附則

- 1 この規程は、平成14年10月9日から施行する。
- 2 この規程の施行の際、改正前の北見工業大学放射線障害予防規程に規定するエックス線発生装置の取扱いについては、改正後の北見工業大学放射線障害予防規程の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表1 (第8条関係)

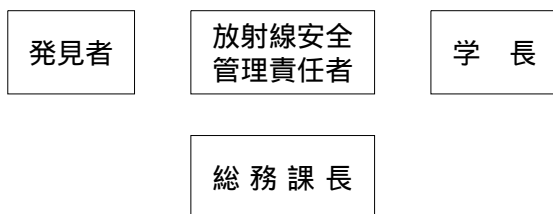
放射線施設の点検

点検項目	点検細目等	年間点検回数
1)位置等 地崩れ、浸水のおそれ：周囲の状況	事業所内外の地形、崖のよう壁、河川の堤防等の状況、最近の地崩れ・浸水の発生状況 事業所の境界等の状況	1 1
2)しゃへい等	ディテクタの破損、欠落等の状況	2
3)機器設置施設 耐火性容器 標識	容器の耐火性、設置している室の施錠等、容器の固定の措置の状況 貯蔵容器及び機器設置施設の標識の設置、破損褪色の状況	2 2
4)その他 注意事項 表示	機器設置施設の目につきやすい場所への注意事項掲示の状況(内容、位置等) ガスクロマトグラフの表面の見やすい場所への注意事項の掲示状況(内容、位置等) 表示の有効期限の確認	2 2

備考「年間点検回数」欄の1は1年につき1回以上、2は6月につき1回以上。

別表 2 (第14条関係)

地震等の災害時における通報体制



制定理由

本学における放射性同位元素等の使用管理に関する事項をより適切なものとすべく、規程の見直しを行うため全部を改正する。

= 日誌 =

(総務課)

- | | | | |
|------|---|-------|--|
| 9月2日 | 技術部技術職員研修(～4日) | 10月1日 | 後期授業開始 |
| 3日 | 人事委員会 | 3日 | 地域共同研究センター第4回特別講演会 |
| 4日 | 総務委員会 | 5日 | 第4回公開講座(～7日) |
| 5日 | 教務委員会 | 9日 | 総務委員会
学術振興・国際交流基金運用委員会 |
| 6日 | 地域共同研究センター第3回特別講演会
大学院専攻主任会議 | 10日 | 人事委員会 |
| 8日 | 外国人のための進学説明会 | 15日 | 入学者選抜委員会
推薦入学者選抜実施委員会 |
| 10日 | 入学者選抜委員会 | 16日 | 第653回教授会
第127回研究科委員会
第6回独立行政法人化問題ワーキンググループ |
| 11日 | 第652回教授会
第126回研究科委員会
大学院博士前期課程・後期課程合格発表 | 17日 | 地域共同研究センター第5回特別講演会
附属図書館委員会 |
| 12日 | 附属図書館委員会 | 18日 | 第4回再編統合問題ワーキンググループ |
| 18日 | 第3回大学改革特別委員会
学位記授与式 | 19日 | 秋季父母との懇談会(北見) |
| 26日 | 外国人留学生見学旅行(～27日) | 22日 | 教務委員会
学生委員会 |
| 27日 | 第4回大学改革特別委員会 | 23日 | 交通安全講習会 |
| 30日 | 国立大学の法人化に関する全学説明会
第3回公開講座(～10月24日) | 24日 | 第7回独立行政法人化問題ワーキンググループ |
| | | 29日 | 地域共同研究センター創立10周年記念式典
記念フォーラム、祝賀会 |
| | | 30日 | 平成14年度消防訓練 |